

# 林業福島

No. 577

題字 福島県知事 佐藤雄平



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

9

2012

かんしゅう■福島県農林水産部  
表紙の写真■楽しい森林教室



# 今後の抱負等について

林材業労働災害防止協会福島県支部

支部長 早川 英二

去る五月二十九日に開催された第四八回通常総会において、支部長に再任されましたので宜しくお願い致します。

さて、平成二三年度は、東日本大震災や、未だ収束しない東京電力の原発事故等大災害に見舞われ非常に厳しい一年でした。

大震災、原発事故から一年以上が経過しましたが、瓦礫処理はおろか、避難住民の復帰計画、汚染地域の除染等未だに復興の道筋が見えてこないことに苛立ちを感じます。特に、原発事故周辺地域の大半は森林であり、その豊かな資源を活用した、林業・木材産業が基幹産業でしたが、既に、警戒区域等の指定により事業活動の制限、生産物の出荷制限や風評被害など深刻な影響が出ております。

林業は、植生、気象条件、地形等が作業現場により異なり、多様な作業環境、作業状況により、使用機械、作業道具、作業手順等自ら判断し対応できる高度な技術・技能が要求されます。今後、森林除染が本格化すれば他産業からの未経験の新規就労者の採用が増えることにより、労働災害の増加が懸念される所です。

平成二三年度の県内の林業における労働災害は、「林業」で四一件、「木材製造業」では、死亡災害一件、死傷災害三六件の災害が発生しております。

これらの労働災害の発生原因を見ると、依然として同種、類似災害の発生を繰り返す傾向にあります。特に、最近の特徴としては、熟練労働者が本来遵守すべき安全確保のための基本的な作業手順を励行していないなど、仕事に対する慣れ、この位大丈夫と言う過信等に起因している災害が増加している現象に有ることがあげられます。

このような事態に対処するには、これまで実施してきた「林材業ゼロ災運動」、「林材業死亡災害防止対策」、「林材業リスクアセスメント」の普及定着、「高性能林業機械等大型機械」による安全作業の徹底など事業者及び労働者が一体となった労働安全意識の高揚、現場における安全の基本に立ち返った、作業手順の徹底や労働安全教育の充実など労働災害防止対策の推進強化に積極的に取り組むことで有ります。

さらに、平成二〇年度を初年度とした「第十一次労働災害防止五カ年計画」も最終年を迎え、この計画の完全達成に向けて、会員皆様のご協力を宜しくお願い致します。

## 《も く じ》

とびら

今後の抱負等について

林材業労働災害防止協会福島県支部長 早川 英二 … 1

福島県優良建設工事表彰 … 2

緑の募金コーナー … 3～4

林研センター … 5～6

林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第11回）

「一ノ渡戸四ツ屋線との出会い」 … 7

普及指導員通信 … 8

木材市況・ふくしま東西南北 … 9

森連だより … 10

きのこセンターだより … 11

林研コーナー … 12

はなしのひろば … 13

# ❖❖ 福島県優良建設工事表彰 ❖❖

平成24年度福島県優良建設工事は、土木部関係で13部門16件（17社）、農林水産部関係で5部門6件（6社）の受賞が決まった。

昨年は東日本大震災の影響で見合わせたため、2年ぶりの表彰。平成22年度か23年度に完成した工事を対象とした。

ここでは林業関係の受賞工事3件について紹介する。

## 治山部門

■施工業者 〒969-6183 会津若松市北会津町上米塚1235-2

永島建設株式会社 代表取締役 永島 隆治

■事業名 復旧治山事業 油窪地区

大沼郡会津美里町旭寺入字油窪地内

■工事概要 流路工 L=145m

■寸評

本工事は荒廃溪流の末端の流路固定を目的とした流路工145mを設置する工事である。溪流末端であるため、予期せぬ場所からの出水等への対応処理や夏季期間の熱中症対策、蜂対策等、作業員の安全確保のための措置が的確に実施されていた。種子付きむしろからは外来種を除くなど、生態系の保全にもしっかり対応していた。仮排水路を埋設して災害時に備えるなど、その取組は評価できるものである。

勾配がある流路であり、コンクリートの品質確保が重要であることから、作業員へコンクリート打設研修を現地で行うなど、品質確保への取組について評価できるものである。また、その結果、仕上がりも良好であった。床固め工、帯工、流路工と連続する構造物が的確に設置され、その出来映えは評価できるものである。



## 林道部門

■施工業者 〒979-1471 双葉郡双葉町大字長塚字町48

田中建設株式会社 取締役社長 木下 弘行

■事業名 ふるさと林道緊急整備事業 赤原遠山Ⅱ地区

双葉郡川内村大字上川内字小笹目地内

■工事概要 自動車道 L=2,193m

■寸評

本工事は、急勾配（7%以上）が4割を超え、拡幅を有する急カーブが連続し、重機作業等において十分な場所を確保できない状況下での工事である。

舗装工においては、As 合材工場と綿密な連絡体制のもとに円滑な合材の出荷と施工が行われた。大小2台のAsフィッシャニーを投入した打設、横断勾配表示板を設置しながら、マカダムローラーとタンデムローラーの併用により入念な締め固めを行い、高い密度と平坦性を確保した。また、路肩L型側溝に石の粉を塗りAs合材が付着するのを防止するなど、きめ細やかな施工によりきれいな出来ばえを確保した。さらに、ブロワーを使用した落葉等除去による異物混入防止を実施していることは高い評価に値する。狭小な現場での複数の重機作業において、機械ごと誘導員を配置して安全対策を行っていることも高い評価に値する。



## 特殊構造物部門

■施工業者 〒963-0921 郡山市西田町鬼生田字阿廣木1

矢田工業株式会社 代表取締役 成田 正樹

■事業名 ふるさと林道緊急整備事業 大霊山地区

伊達市霊山町石田字荷立場地内

■工事概要 橋梁上部工 L=47m

■寸評

本工事は、橋梁上部工の製作及び架設工事であり、鋼製箱桁を6分割して現場に搬入し、山間部の狭隘な沢地形部に施工するものである。

厳しい線形条件（曲線半径60m、横断片勾配6.0%）であり、直橋と比べより正確性が求められるが、床版厚検測に六角ボルトと全ねじボルトを組み合わせた検測棒を採用し、床版厚と鉄筋かぶりの確実な確保を図るなど、高度な技術と適切な施工管理により、優秀な出来型と品質を確保した。周辺保安林の損傷防止対策、土石流を想定した避難訓練の実施、熱中症対策、ゴミ分別の徹底、散水車での路面清掃等、路線や現場周辺の美化に努めた。東北地方太平洋沖地震の発生に伴い工程に遅れが生じたが、綿密な工程管理により工期の約2ヶ月前に工事を完成させるなど、適正な管理がなされており、出来栄も非常に優秀である。



# 緑の募金について

## I 平成二四年度春季緑の募金実績がまとまりました

募金額が大幅に回復しました  
御礼申し上げます

昨年は東日本大震災等の影響により、春季緑の募金活動を自粛したため、募金額は約一、二〇〇万円となり二二年度に比べ大幅に減少しましたが、避難されている方々への支援を目的に秋季緑の募金活動を実施し、多くの県民の皆さまからご理解とご協力をいただきました。

本年は、昨年に引き続き東日本大震災からの復興事業として、浜通りの幼稚園等に積み木の贈呈や「森の教室」イベントの開催、さらには、昨年中止した緑の少年団大会の開催などを目的として春季緑の募金活動を実施したところ、別表のように約五、五〇〇万円のご寄附をいただきました。多くの県民の皆さま及び関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

緑の募金の用途につきましては、八月三日に開催した「緑の募金運営協議会」においてご検討いただき、

各地方緑化推進委員会とともに、「うつくしま育樹祭」をはじめ各種イベントの開催や緑化の推進を通して本県の復興に役立ててまいります。

## II 秋季緑の募金活動の実施について

秋季緑の募金活動は九月一日から十月三十一日までの二か月間を重点活動期間として実施いたします。

春季緑の募金同様、被災された方々への支援や復興に向けた取り組みなどを実施してまいりますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

募金に関するお問い合わせは福島県緑化推進委員会または各市・地方緑化推進委員会にお尋ねください。

〒九六〇―一八〇四三  
福島市中町五―十八（林業会館内）  
**（社）福島県森林・林業・緑化協会**  
**福島県緑化推進委員会**  
TEL 〇二四―五二四―一四八〇  
FAX 〇二四―五二二―一三二四六

## 平成24年度緑の募金（春季）実績

単位：円

市・地方緑化推進委員会	募金目標額	募金実績額	達成率 (%)	募金の種類				
				街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金
福島市緑化推進委員会	9,300,000	3,321,837	35.7	5,416	0	1,426,753	837,399	1,052,269
伊達市緑化推進委員会	2,300,000	2,454,374	106.7	31,916	1,807,570	204,000	337,563	73,325
伊達郡緑化推進委員会	1,400,000	911,424	65.1	2,106	662,600	186,000	60,718	0
二本松市緑化推進委員会	2,100,000	0	0.0	0	0	0	0	0
本宮地域緑化推進委員会	1,300,000	1,010,892	77.8	498	260,600	503,316	117,089	129,389
国土緑化郡山市推進委員会	11,100,000	10,813,962	97.4	7,200	6,909,900	909,835	868,632	2,118,395
須賀川市緑化推進委員会	2,600,000	25,174	1.0	25,174	0	0	0	0
国土緑化岩瀬地方推進委員会	600,000	678,995	113.2	1,901	491,543	4,910	100,907	79,734
田村地方緑化推進委員会	2,600,000	3,639,876	140.0	67,721	2,588,500	325,718	558,501	99,436
国土緑化石川地方推進委員会	1,800,000	2,097,951	116.6	295	1,078,710	423,739	250,014	345,193
白河市緑化推進委員会	2,200,000	789,341	35.9	0	74,900	554,424	160,017	0
国土緑化西白河地方推進委員会	1,600,000	1,948,573	121.8	568	1,301,100	413,764	219,494	13,647
国土緑化東白川地方推進委員会	1,500,000	1,173,375	78.2	262	807,010	154,798	173,385	37,920
会津若松市緑化推進委員会	4,500,000	5,340,165	118.7	44,528	3,565,199	472,000	785,935	472,503
両沼地方緑化推進委員会	2,000,000	1,891,186	94.6	1,201	1,694,320	50,000	145,665	0
会津耶麻地方緑化推進委員会	1,200,000	1,381,216	115.1	3,915	1,063,000	80,000	112,525	121,776
喜多方市緑化推進委員会	2,000,000	2,338,561	116.9	2,999	1,588,380	285,000	453,871	8,311
南会津地方緑化推進委員会	1,400,000	1,637,005	116.9	51,369	1,392,385	8,000	178,451	6,800
相馬地方緑化推進委員会	4,400,000	441,398	10.0	0	0	0	441,398	0
双葉地方緑化推進委員会	2,600,000	0	0.0	0	0	0	0	0
いわき市緑化推進委員会	11,500,000	11,986,703	104.2	244,138	8,708,899	1,191,906	1,416,531	425,229
小計	70,000,000	53,882,008	77.0	491,207	33,994,616	7,194,163	7,218,095	4,983,927
森林管理局	0	23,919	—	0	0	0	23,919	0
事務局	0	1,588,129	—	36,332	0	986,133	565,664	0
小計	0	1,612,048	—	36,332	0	986,133	589,583	0
合計	70,000,000	55,494,056	79.3	527,539	33,994,616	8,180,296	7,807,678	4,983,927

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む。



昨年度の状況

- 開催日時 十一月三日(祝) 午前十時
- 開催場所 県民の森(大玉村)
- 主な内容 育樹・植樹活動のほか各種イベントを予定(お楽しみに!)
- 参加費 無料

## 第十回 うつくしま育樹祭を 開催します。

東日本大震災からの復興元年また第十回目にあたる節目を迎えるうつくしま育樹祭を盛大に開催することとしており、現在、下記のような概要での開催に向けて実行委員会で内容を検討しております。

お申込み方法等につきましては、近日常にチラシ等も作成して皆さまにお知らせいたしますので、是非ご参加くださいますようご案内いたします。

## 第四五回 花いっぱいコンクール現地審査



JH東日本の飯坂インターチェンジ出口付近のプランター

緑の募金を活用して行っている花いっぱいコンクールは今年で四五回目を迎え、今年には五二団体から申込みがありました。

昨年は現地審査を行わず、アルバム等による書類審査としましたが、専門家の指導が受けられる現地審査の実施について多くの団体から要望があり、県の協力により今年からは現地審査を実施しています。



川俣町飯坂小学校5年生の見事な花壇

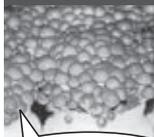
九月四日には、福島市、川俣町の応募七団体の審査を行いました。今年には雨が少なかったため管理に大変苦労されたようですが、いずれも見事なできばえでした。

十月に本審査を行い、十一月下旬に福島民友新聞社において表彰式を行います。

## きのこで地域を元気に (社)福島県森林・林業・緑化協会 きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)

福島N1号



安定多収量

福島N2号



大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)

福島N3号



コナラ原木で安定・多収量  
食物繊維、ペクチン様物質豊富

福島N4号



○その他各種種菌

○菌床 ・シイタケ  
・ハタケシメジ  
・ムラサキシメジ等

○マイタケホダ木 ○栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926  
E-mail: f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL: http://www.f-kinoko.org

■はじめに

皆さんは二〇一〇年九月号（第五五三号）で紹介した、「スギ黒点病菌」という菌類を用いて既存スギ林の雄花を開花前に枯らしてしまおうという、即効性を狙った花粉症対策について、覚えておいででしょうか？

現在、国の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業（菌類を利用したスギ及びヒノキ花粉飛散防止技術の開発）」というプロジェクトに参画し、スギ黒点病菌を利用した実用的な花粉飛散防止技術の開発に取り組んでいるところです。今回は、このプロジェクトにおいて、これまでに得られた成果の一部をご紹介します。

■スギへの最適な人工接種時期

スギ黒点病菌によって、効果的にスギの雄花を枯らし、花粉飛散を抑えるためには、最適な時期にスギ黒点病菌を人工接種する必要があります。

そこで、二〇一〇年十一月～二〇一一年二月にかけて、スギ黒点病菌の人工接種適期を明らかにするため、当センタ―内に植栽されている八年生のスギに、時期を変えて人工接種を行いました。同時に各接種時期における雄花の発育状態を調べ、雄花枯死率（人工接種に供した全雄花穂数に占める感染枯死した雄花穂数の割合）との関係を比較検討しました。

接種源としては、スギ黒点病菌を二週間米ぬか＋ふすま培地に培養した

林業研究センターだより

## スギ黒点病菌による花粉飛散抑制技術の開発～その後～



スギ黒点病菌に感染したスギ雄花穂

森林環境部  
主任研究員 壽田智久

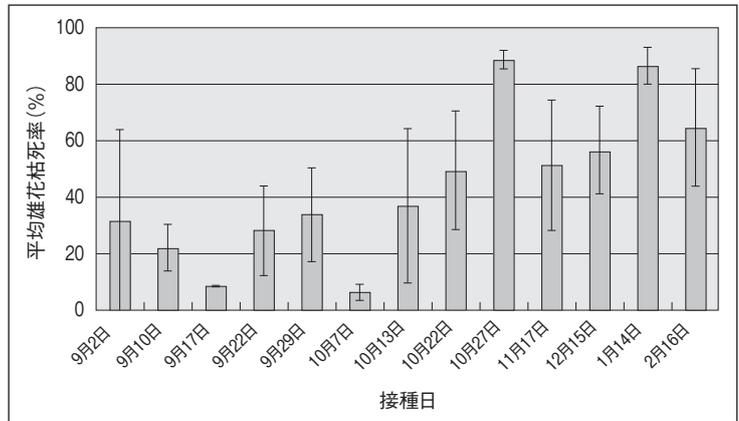


図-1 人工接種時期別の平均雄花枯死率

菌糸塊（有菌米ぬか＋ふすま固形培地）を用い、付着法（雄花穂をビニールテープで覆い、その中に接種源を入れる方法）により接種を行いました。また、雄花の発育状態については、各個体から毎回三雄花穂ずつ採取し、（独）森林総合研究所に調べていただきました。

その結果、いずれの時期でも雄花の枯死が認められましたが、九月二三日以前の枯死雄花からはスギ黒点病菌が再分離されず、スギ黒点病菌による雄花の枯死は十月以降、特に十月

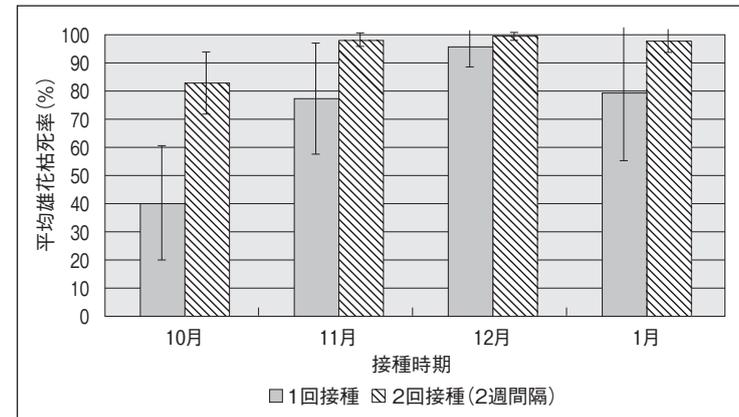


図-2 新処理液の時期別人工接種による平均雄花枯死率

■スギへの感染率の向上

前述の人工接種適期を把握する為の試験では、接種源として有菌米ぬか＋ふすま固形培地を使用しましたが、実用化を図るには、どうしても散布接種を考えざるを得ません。以前にご紹介した時には、スギ黒点病菌の「米ぬか＋ふすま培地培養菌糸体懸濁

下旬以降に高い確率で引き起こされることが分かりました（図-1）。また、雄花枯死率は成熟雄花となつてから高まることが分かりました。

液」に大豆油等を混ぜた液体をスギ雄花穂にスプレー器を用いて散布する方法（散布法）により、六割前後の雄花を枯死させることが出来たとご報告しました。雄花枯死率が六割ではまだまだ不十分だったため、その後本プロジェクトにおいて胞子体を主体とした新処理液が開発され、雄花枯死率が大きく向上しました。

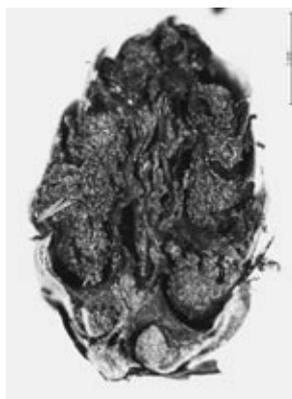


写真-2 スギ枯死雄花の内部



写真-1 人工接種により枯死した雄花穂(右)と未接種雄花(左)

二〇一二年十月から翌年一月にかけて、九年生のスギの枝を対象に、散布法により新処理液を人工接種した結果、約七七％～九九％と、かなり高い割合で雄花を枯死させることに成功しています。なお、接種回数は一回接種よりも二週間隔で二回接種した方が、より雄花枯死率が高まること分かりました。（図-2、写真-1、写真-2）。

### ■ ヒノキにも効果あり

ヒノキは、スギより少し遅れて花粉飛散のピークが訪れますが、やはり花粉症の原因樹種となっています。既に、ヒノキについても、スギ黒点病菌の人工接種によって、雄花の感染枯死が生じることが明らかにされています。しかしながら、人工接種の適期がまだ明らかになつていなかったため、二〇一二年一月～四月にかけて、当センター内に植栽されている二五年生のヒノキに、スギ同様に時期を変えて人工接種を行い、各接種時期における雄花枯死率と雄花の発育状態を比較検討しました。接種源には新処理液を用い、散布法によって接種を行いました。また、三月十六日以降の接種時には、各接種枝から二〇個の雄花を採取して雄花の発育状態の観察に供しました。

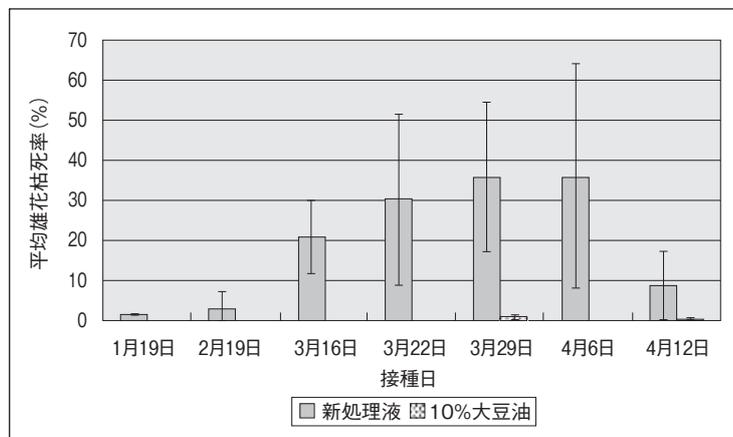


図-3 ヒノキへの時期別人工接種による平均雄花枯死率

その結果、一月及び二月ではほとんど枯死雄花は認められず、三月十六日から急激に雄花枯死率が高まり、三月二十九日～四月六日に雄花枯死率がピークを示しました（図-3）。

また、雄花の観察により、雄花枯死率が急激に高まった三月十六日は、漸く雄花が成熟し始めた時期であり、雄花枯死率がピークを迎えた三月二十九日には、ほぼ完全に雄花が成熟していることが確認できました。このことから、スギ同様に雄花が成熟する時期以降が人工接種適期と考えられます。

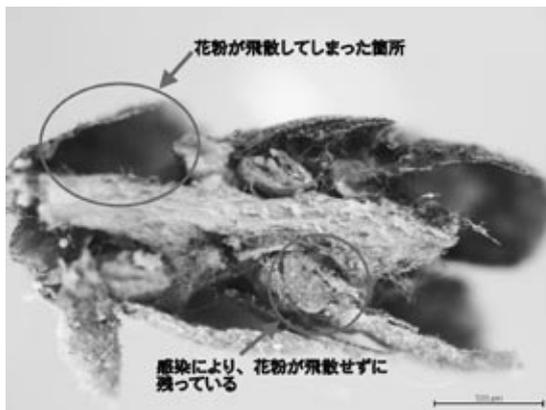


写真-3 一部、花粉が飛散した感染雄花

した。なお、四月十二日接種で雄花枯死率が急激に低下した原因は、開花が四月十九日であったこと、感染した雄花の中には一部花粉が飛散しているものがあつたこと（写真-3）等から、十分に感染するには時間がなかったと考えられました。

### ■ おわりに

本プロジェクトは今年度が最終年度です。スギについては試験レベルでは、十分に花粉飛散抑制の効果が確認できましたが、ヒノキについては、まだ改良の余地が残されています。

今後は、農薬登録も含め、実際に林分に施用する等、更に一歩踏み込んで実用化に向けた試験に取り組んでいければと考えています。



## 林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第11回）

# 一ノ渡戸四ツ屋線との出会い

技術士 中村多伸

路線名	一ノ渡戸四ツ屋線	幅員	4.00m	延長	16,288m
市町村名	会津若松市東山町湯川～大戸町闇川地内				
開設年度	昭和52年～平成8年	事業名	広域基幹林道開設事業		

### 1. 一ノ渡戸四ツ屋線との出会い

当該路線とは昭和57年4月、赴任先の会津若松での出会い、既に着工路線であったが用地問題が難航し、黒森地区の小山区長に連日訪問され、公舎にまで陳情された記憶がある。小山さんの熱い真意に触れたいと当地を訪問した。黒森地区は山奥の10数件の小さな集落で細い市道が唯一の生活道で、循環道・防災道としての機能を求めているのだろうか。今では憶測でしか判断できないが、こうした小さな集落沿線に道路が出来ることへの期待感だったのかもしれない。

反対側の闇川地区の起点の決定には多くの時間を要し、直営での測量も余儀なくされたが熊との出会いが印象的であった。また、黒森地区と闇川地区の接点地点は、地形が急峻で全体計画線形の実施が困難となり、現地調査を重ねトンネルと橋梁との連続計画にした思い出がある。当時同僚だった渡辺寅男さんと30年ぶりに当該路線を訪ねた。

### 2. 現地の状況

- ① 路盤の管理は良好で、特に側溝の土砂等の排土が丁寧に行われ、洗掘や縦浸食が少なく走行性が確保されている。しかし、闇川側の急勾配区間は、グレーダーによる路面管理が認められ、路盤が脆弱化し縦浸食されている区間がある。機械による路面補修は路盤材の補充をしながら管理することが肝要である。
- ② 溜耕の機能はほぼ良好で、随所に設置されていて機能しているが、排水施設のうち、大規模なBOXカルバートの上流側には土砂が堆積して機能していなかったが、初期段階での管理をしていないと、大掛かりな管理の必要が生ずる場合があるので、小まめに手入れすることが求められる。
- ③ 法面保護工は、相対的に崩土も少なく木本類の生育も良く、支障木の管理も良く車両の通行が容易である。このように、管理が全体的に良好で気持ちの良い林道であった。
- ④ 特記すべきことは、林道開設時に広葉樹を伐採した跡地に、杉の美林と良好な間伐が実施されている林分が多く認められたのは、林道の開設効果の最たるものと思われる。

### 3. 技術的な課題とその現状

- ① 当該林道は等高線沿いに波型の縦断勾配を採用した線形で、災害に強く安経費で開設されている模範的な林道である。特に路盤工は機械転圧ではない区間を多く設定したが、現時点上置砂利工との区分が分らないくらい堅固で平坦な路盤になっている。
- ② 黒森区間や闇川区間では、法面保護工の工法は多種多様な工法と配合を試みたが、ラス張りの客土吹付け工と導入した木本類の種類等の選定は適切であったことが立証されていることを確認できた。
- ③ 前述した黒森と闇川地区との接点区間を線形変更し、トンネルと橋梁の組み合わせを試みた。既に闇川区間が施工されてトンネルまでの距離が確保できないことから、例外規定の縦断勾配にして実施したが、自ら通行してみると違和感を感じず。しかし急傾斜区間を避けてトンネルと橋梁で実施したことは適切であったと判断できる。
- ④ 沢を横断する場合に、排水機能（CP・BOX等）を持たせた大規模な盛土箇所を計画することが多々あるが、呑み口側に堆積する土砂の処理を考慮して設計することが肝要である。
- ⑤ 当該路線でも、駒止工が施工されているが、盛土箇所では沈下等で機能が著しく低下するケースが各地で認められているので、切土等堅固な地盤に計画することが肝要である。



トンネルと橋梁の組合せ  
(黒森・闇川地区の接点)



間伐の実施状況（黒森区間）

### ・ひとり言・

時々職場にお邪魔することがありますが、驚くことが二つあります。一つは、凶面を開いていない姿と会話の少ない姿です。設計書の電算化を進める際のポイントの一つに、積算資料を見なくなり、歩掛りそのものの体系が忘れられて（積算の根拠）、現場監督が出来なくなるのではないかという不安がありました。確かに、ITは職場に浸透し、画期的なスピードと省力化に貢献しましたが、本質を見失うことのないように願ってやみません。

# 森林再生ボランティア活動を 実施しました。

■県中農林事務所

林業普及指導員 米川 眞太

県中農林事務所では、9月5日に逢瀬公園・緑化センターにおいて、森林再生ボランティア活動を実施しました。

この活動は、除染作業や植樹作業を体験しながら、放射性物質による森林汚染の実態などを学び、森林再生について考える機会として、東京農業大学と（財）都市公園・緑化協会、県中農林事務所の共催で開催したものです。

活動に参加したのは、東京農業大学地域環境科学部造園科学科の都市緑化技術研究室で近藤三雄教授に学ぶ学生達です。

この研究室では、これまで都市を彩る花や緑の技術を開発してきましたが、昨年原発事故以降、放射性物質で汚染された芝生の除染と再生についても研究を開始しました。今回会場となった逢瀬公園・緑化センターにおいても、昨年、近藤教授らが芝生の深刈り工法（造園式除染・更新工法）の実証実験を実施したほか、学生らによる様々な研究が継続中であり、このような関係から、研究室の合宿日程の中に、森林再生ボランティア活動が組み込まれたものです。

## 【取り組みの内容】

### ○福島県の森林汚染状況と除染に向けた取り組みについての概要説明

- ・放射性物質による汚染状況について、現在も居住制限区域が設定されていることや、県内の森林や林産物等も放射性物質に汚染されたこと。
- ・林業生産活動やそれ以外の野外活動も制限され、安全が確認された林産物等においても、風評被害により甚大な損害が出ていること。
- ・森林等の除染は、生活圏と接する林縁部などで取り組むことは決まりましたが、それ以外の森林については、いまだ検討中であること。

など、福島県を取り巻く状況について、理解を深めてもらいました。

### ○森林除染作業

公園の一部において、汚染された落ち葉や枯れ枝を森林外へ搬出することにより除染を図る作業を行いました。

学生らは、郡山市森林組合の職員から除染の作業手順の説明を受けた後、園内の森林に入り、熊手で落ち葉をかき集め、土嚢袋に入れて搬出する作業を行い、1時間ほどの作業で、土嚢袋400袋ほどの落葉落枝を集めることができました。

### ○復興祈念植樹

復興祈念植樹として、公園の一角にクヌギの苗木を植栽しました。

この苗木は、郡山市内の個人の方が育てたもので、環境の大切さを知っていただく機会に使って欲しいと、提供していただいたものです。

活動開始にあたって近藤教授は学生達に、「除染という目的だけでなく、除染をすることによって、少し荒れた、荒廃した森林を再生する。都市の緑においても、除染作業によって、より健全な快適なものにしていく。という視点が大切」と話されていました。

活動終了後、緑化センターから郡山産の梨が振る舞われました。

おいしそうに梨を食べる学生達の姿を見ていますと、放射性物質による汚染や、風評被害に負けず頑張ろうと思え、学生達から元気をもらった活動体験となりました。



郡山市森林組合職員による作業説明



除染ボランティアの状況



復興祈念植樹



## 素材の価格〈工場着価格〉（6月15日現在）

（単位：m<sup>3</sup>当り千円）

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~9)	1	(0~0)	0	9 (9~9)	0	9 (8~9)	1
		10~13		並	スギ	10 (8~12)	0	8 (6~9)	0	10 (10~10)	△1	9 (6~12)	△1
	中	14~18	3.00	並	スギ	10 (9~11)	△1	10 (8~11)	0	10 (9~10)	0	10 (8~11)	0
			並	ヒノキ	17 (13~23)	0	(0~0)	0	15 (15~15)	0	17 (13~23)	0	
		6.00	並	スギ	19 (15~25)	0	(0~0)	0	14 (14~15)	△1	17 (14~25)	0	
			並	ヒノキ	24 (24~24)	0	(0~0)	0	25 (25~25)	0	25 (24~25)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	12 (11~13)	0	11 (11~12)	△1	11 (11~12)	0	11 (11~13)	0	
		4.00	並	アカマツ	10 (8~14)	0	(0~0)	-	9 (9~9)	0	10 (8~14)	0	
		1.80	並		7 (5~8)	0	(0~0)	-	8 (8~8)	0	7 (5~8)	△1	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	22 (22~22)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	0	23 (22~23)	0
並				米マツ	26 (25~26)	1	26 (26~26)	0	23 (21~24)	△1	24 (21~26)	△1	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	0	22 (22~22)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	0	22 (22~22)	0	
70~90		8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	

五月の原木市場への入荷状況は、前月比で三〇割減（前年比二二割減）の一六、七五立方メートルとなっている。製材需要の低迷により素材価格の下落が続いていることが、出材量減の要因と考えられる。販売量については、前月比三〇割減（前年比二四割減）の一六、〇五立方メートルとなっている。六月の価格については、弱気配である。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)	0	(0~0)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)	0	8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)	0	9 (8~10)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、\*印は前月実績がなかったことを示す。  
2. ( )内は各地域の価格幅、( )外は各地域の平均的価格を示す。  
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

東日本大震災から一月が経過した昨年四月半ば、所長、部長の「復興市だ！」で始まった木材市。上司の言葉にも半信半疑で取り組んだ仲間づくりに、生まれ育った地でありながら、中々受け入れてもらえない。見るからに、自信と風格を感じる個性的な人ばかり。ようやく十五人の仲間ができた。次に待っていたのが組織の立ち上げ、戦々恐々とした面々、心の内を見せない。併せて議題にしたのが、六月九日の第一回「震災復興用木材供給市」である。うちの上司は、言うことも言うがやることも早い。この早さが南会津の丸太を息づかせる切っ掛けになったことは言うまでもない。勢い、イケイケで始まった第一回木材市では、六四〇立方メートルの丸太が集まった。スギやカラマツに混じって、末口五〇センチを越すクリやヒメコマツ。買う方にはたまらない。ここまで協力が得られるとは誰かが予想していなかった。二回目の市を開催したのが、十月六日である。国有林の協力もあって、八六〇立方メートル集荷できた。市も成功のうちに終わった十二月中旬、来年の復興用木材の安定供給に向け、南会津町長に要望活動を行った。今年六月には、第三回目の木材市を開催するまでになった。出材量は、一、〇〇〇立方メートルの大会を越すこ



## 震災が縁で深まった 南会津の素材生産業

南会津農林事務所森林林業部 佐藤 豊 八

とができたが、極山の質の違いが気に掛かる。早速、市場関係者や県外から社長さんと呼んで、造材技術や極山づくりの研修会を開催することになった。多くの素材生産業者とともに森林組合作業員も一緒に参加することで、雰囲気も大分変わってきた。先日、次回木材市のあり方について意見交換会を持ったところ、会津森林管理署南会津支署では、昨年に引き続き、カラマツ三〇〇立方メートルの出材を約束し、二・二センチのスギ、カラマツ林を地元業者が伐採することになり、四〇〇立方メートルの出材で協力してくれる。伐採跡地は再造林し、仕事づくりを目指す。初めての市を契機に、地域の林業関係者が、国有林を巻き込んで一つになろうと行動に出ている時です。森林組合の間伐材を、素材生産業者が大型トラックで輸送するなどの業務提携に発展している分野もあります。課題は山積みしていますが、ようやく、南会津地方に遅い春が訪れようとしています。



「震災復興用木材供給市」造材技術研修会

団体のページ



安全用具の装着の  
必要性について

森林内での作業中の労災事故としてチェーンソー、刈払機とも脚部の被災が圧倒的に多いです（六〇%以上）。  
 機具別にみると、チェーンソーは脚部でも膝部の正面。刈払機では正面の五指の被災率が高く、切断など重度の被災も見られます。  
 脚部位外では、腕部に二〇%以上の被災率が見られ、特に手の五指が多いです。  
 事故原因として、キックバック（三一%）、スリップ（二四・九%）が多く見られます。また、力をかけ過ぎた状態で伐った際に、切り抜いた刃が勢い余って脚部等に当たるという事例も見られます。手の五指については、エンジンを掛けたまま刃に絡まったゴミ等を除こうとしたときに被災したなど、不注意による事故も多く見られます。  
 年齢については、一〇代・七〇代を除いては、概ね平均して被災していません。就業年数別に見ると、チェーンソー・



刈払機とも五年以下の就業者の事故率が五〇%近くになり、切断等の重度の被災も見受けられます。また、三〇年以上の就業者の事故も、少ないとは言えませんが、作業上の安全指導が必要となりますが、合わせて安全用具の適切な使用により怪我の軽減につながります。  
 特に、被災が多い脚部の安全用具の使用はかなり有効です。  
**チェーンソー作業用防護衣**  
 作業ズボンの上から装着する物で、ズボンタイプ、チャップスタイプ（前掛け）等があります。防護衣の内部に特殊な繊維が織り込まれており、チェーンが布地を切り裂くと特殊繊維が引き出されチェーンに絡みつき、チェーンの回転を瞬時に停止させます。ただし、刈払機用とは繊維の織込方が違うため、刈払機の刃（チップソー等）を止めることは出来ません。



チェーンソープロテクター

刈払機作業用防護具

脚の脛に装着する物。野球のキャッチャー用プロテクターの様な物（硬質プラスチック製）や、チェーンソー用と同じように繊維によって刈払機の刃を



スネガード

止めるものがありますが、チェーンソー用の兼用は出来ません。



作業靴

爪先に先芯（ガード）が入ったものを推奨します。地下足袋、シューズ、ブーツ等種類も豊富です。ただし、先芯以外は普通の作業靴と同じ素材なので、注意が必要です。

これから本格的な伐採や枝打ち作業の時期に入りますので、安全用具の再点検と補充を行い、安全作業に努めましょう。

これ以外にも各種安全用具があり、本会で取り扱っております。

《お問い合わせ・ご用命は各森林組合か、福島県森林組合連合会（電話〇二四一五三三〇二五五、担当業務課 高橋）までお願いします。》

きのこセンター  
だより

### 放射性物質検査の 取組み ～食品の安全・安心確保 への取組み～

(社)福島県森林・林業・緑化協会  
きのこ振興センター  
主査 平田 尚久

昨年発生した東京電力福島第一原子力発電所事故で拡散した放射性物質は、東日本一帯における農林水産物の食品の安全を大きく揺るがしています。厚生労働省では、当初暫定規制値を設定して、原子力災害対策本部の決定に基づき暫定規制値を超える食品が市場に流通しないよう出荷制限等の処置を講じました。平成二十四年四月からは『より一層食品の安全と安心を確保するために』緊急的な対策ではなく、長期的な観点から新たな基準値を設定しています。

これらの基準値の設定にともなうて、キノコにかかわる指標値も設定及び見直しが行われています。キノコ栽培は大きく原木栽培と菌床栽培に分類されますが、どちらの栽培方法を行うにせよ、それぞれ使用する原材料及び生産物について安全性確認が求められます。また、流通・消費者側からもそれらの証明書の添付を求められることが多く、生産者は安全性



きのこ振興センター

の証明を自ら積極的にを行う事を余儀なくされているのが現状です。きのこ振興センターでは、県内生産者がこのような厳しい状況におかれているなかで、少しでもお役に立ち、また消費者の皆様にも県産きのこを安心して購入できるように、昨年十一月より放射性物質測定装置を導入して、検査業務を行っています。今回はその検査状況についてご紹介いたします。

生産者の負担を軽減するべく、必要な分析料についても極力抑制しており、より細やかな安全性の証明に役立てて頂きたいと思っております。

分析実績は、昨年度生きのこ二二六、原木四二二、培地八一ほか、計四八五検体であり、今年度は六月までに生きのこ五一、原木一、培地二六〇ほか、計三二二検体の分析を実施しています。今後秋から冬に向けてキノコ発生、消費及び製造シーズンになるため、分析依頼が増加すると考えられます。

私たちは過去に「食の安心・安全」の崩壊を何度も経験してきました。O-157問題ではカイワレ生産者が大きな風評被害を受けました。またBSE、鳥インフルエンザなどでも同様のことが生じました。見えないものや未知のものへの不安が不安を呼ぶ結果、長期にわたる「風評被害」を生じさせてしまいます。安全な原材料を使用し適切な管理のもと栽培されたキノコは、食品の基準値を超えることとは異なります。風評被害の払拭のためにも、地道に安全性の証明を行うていく必要があります。

当センターといたしましては引き続きいて食品の安心・安全の確保のために分析業務を行ってまいりますので、ご活用いただきますようお願いいたします。

### ● 放射性物質検査

受付：

八時三〇分～一七時一五分(月～金)  
遠方の方は宅急便をご利用下さい。

分析料：

二、五二〇円/検体

※詳細については(社)福島県森林・林業・緑化協会きのこ振興センター  
TEL 〇二四一九四七―二八八



分析検体 (生きのこ)



分析作業風景

団体のページ

林研コーナー

林研グループの現状について

ふたばグリーンネットワーク2000

代表 早矢仕 恵子



あの未曾有の震災、津波、そして原発事故から、一年半が過ぎようとしています。

私たちの福島県は豊かな森、きれいな水、そして、本当の空を、先人たちから受け継ぎ、守ってきましたが、残念なことに、一瞬にして、放射能という目に見えないものに汚染されてしまいました。森林に対する活動は、いつの間にか除染活動になり、林家を始めとする関係者は、色々と思案していることと存じます。除染に関しては、国の取組みが遅れているのが現状です。

私たちも正直どのように動けばいいのかかわからず、ただ時間だけが過ぎ焦点が合わなくなっていました。でも、私が驚いたことには、あの災害にあったにもかかわらず、各紙では、森林イベント、緑の教室・・・

今までと変わりなく活動報告があり、少し驚いています。それは、大人はもちろん子供たちも参加しての活動を再開しているからです。とても勇敢に見えるし、困難に向かっている果敢に前を向き、前進していることを感じました。何もしなければ、前には出られない現状で、一歩出るこの力、先人たちから受け継いだ、豊かな財産を守るために私たちがなくてはならない事、色々考えさせられました。

現在の林研グループの現状については、各団体は、継続が難しく、私のグループも現在のままでは活動再開することができません。今後の活動はもちろん色々とコーディネートをする必要があると思います。休止しているグループの再活動を促すことも必要だと思えます。

各団体の意見(情報)の交換を頻繁にしていくことも、課題です。個別単位で動くことは難しくなっていく上で、横の繋がりが必要にも思えます。

先にも書いたように、私たちのグループの再稼働はとても難しく大変ですが、私自身近隣の活動に参加していきたいと思っています。まず私たちが、元気に活動することが、復興・再生になると思っています。私は被災していますので、どうしても観点が被災になります。これから福島県において、林研グループの地道な活動が、次世代に負の遺産ではなく、緑の豊かさを継承できるような活動にしたいと思っています。

やっぱり故郷の緑が一番素晴らしい、そして故郷の水はおいしいです。失くして初めて初めて分かることもありました。避難先で、原発の爆発が続き、もう帰れない、と思ったとき、なぜか、涙がこぼれるよりも、心の中で、うさぎ追いかの山、小鮒つりしかの川、忘れ難い故郷をうたつてました。やはり故郷の緑、水、は一番良いに決まっています。本当の空を信じて、林研活動につなごうと思えます。

第37回福島県林業祭(林業復興応援イベント)の開催

- 1 開催日 平成24年10月20日(土)～21日(日)
- 2 会場 福島県林業研究センター、ホテルバーデン (郡山市安積町)
- 3 内容

【林業関係表彰式】	ホテルバーデン	20日(土)	11:00～12:00
【林業復興シンポジウム】	ホテルバーデン	20日(土)	13:00～15:00
【林業関係の復興に関する展示】	林業研究センター	20・21日両日	
【体験・イベント等】	林業研究センター	20・21日両日	

模擬上棟式、森のオークション、きのこ料理実演、木工クラフト、農林産物展示販売など  
 ※詳細については、後日チラシ等でお知らせします。なお、林業復興シンポジウムについては事前の申込が必要となります。

表紙の写真



「楽しい森林教室」

第8回ふくしま森林・林業写真コンクールで佳作となった市川明さん（福島市）の作品。

はなしの  
ひろば

自然の色

雨上がりの空にかかる虹、子供の頃、虹を見つけると友達と色の数を競った思い出がある。いつも、七色全てを見分けることは難しかったのを覚えている。色は赤から紫まで不連続なので中間色がいくつもあるが、はっきりと見分けられる色はそう多くはない。古来の日本では、虹は五色だったという。また、現在でも虹は二色という民族もあるらしい。一色でも七色でも虹は虹であり、色の数はいくつ見えるかということではなく、いくつに見るかという文化であると思う。なお、七色は、ニュートンが決めて学校教育で広まったという。

日本の伝統色の中に、「もえぎいろ」という色がある。皆さんはどんな色を思い出すだろうか。多くの人は、春の芽吹いたばかりの草木の色（萌黄色）だろうか。「もえぎいろ」には、もう一色ある。ネギの芽の色、少し暗い緑色（萌葱色）である。私の「もえぎいろ」は、春の山の色である。

残雪の中に萌え出るブナの鮮やかな黄緑色、水色に少しだけ緑色を混ぜたようなコナラの芽吹きや緑にオレンジを混ぜたような赤みがかったクヌギの芽吹きなど、紅葉と同じように樹木それぞれに芽吹きの色が異なり、春の山は心浮き立つほどに美しい風景となる。紅葉は近くから見てもきれいだ、春の山は、遠くから山全体を見るのがよいと思う。

秋の紅葉は、一抹の寂しさを内在させた煌びやかな美しさ、春の若葉は、内に沸き立つエネルギーを秘めた伸びやかな美しさを感じる。

落葉広葉樹林帯に生活していることを、つくづくありがたいと思う季節である。来年の春には桜のお花見ばかりでなく、山笑う季節を満喫しに出かけよう。

「山笑う」とは、俳句の春の季語である。草木が萌え始めて、のどかで明るい春の山の様子のことだが、春の山を見て「山笑う」と表現した日本人の感性を大切にしていきたい。しかしながら、当時と現在の里山の樹木の種類の異なっていると、萌黄色が違う色となってしまう。先人が「山笑う」と読んだ萌黄色が現在も同じ色であることを願っている。

安達 薫風

編集

福島県内四森林管理署  
福島県森林・林業・緑化協会  
福島県森林組合連合会

福島県木材協同組合連合会  
福島県農林種苗農業協同組合  
福島県農林業公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所  
福島県森林・林業・緑化協会  
福島市中町五番一八号県林業会館内

相馬 雅俊

発行人

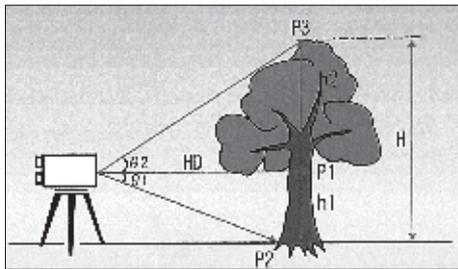
発行

陽光社印刷株式会社

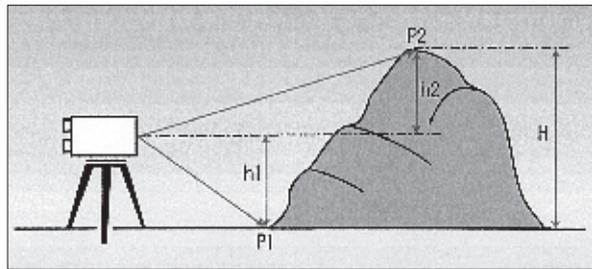
（定価 六三円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

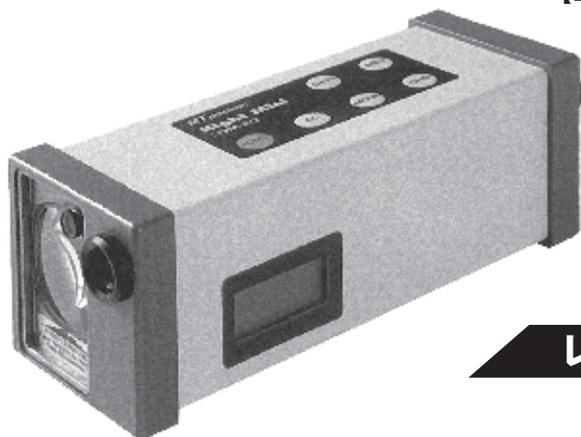


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定法	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

# 備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



## 1 火災

山火事で受けた損害



## 2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



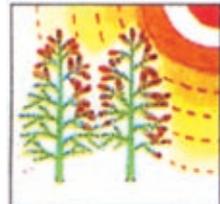
## 3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



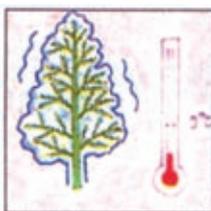
## 4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



## 5 干害

乾燥による枯死などの損害



## 6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



## 7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



## 8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課  
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

## GP-45V グラップルプロセッサ

**IWAFUJI**  
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor  
MODEL : GP- 45V

**イワフジ工業株式会社**

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7  
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!

大地のめぐみ、まっすぐ人へ  
**SCC GROUP**  
住化グループ

# 自然との調和

( 私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。 )  
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

**野生獣類から大切な植栽木を守る**

ヤシマレント

**蜂さされ防止**

ハチノックL (巣退治)  
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤**

ヤシマスミバイン乳剤  
ヤシマスミバインMC  
グリーンガードNEO  
パークサイドF  
ヤシマNCS  
モリエートマイクロカプセル  
マツグリーン液剤2  
マッケンジー

**くん蒸用生分解性シート**

ちゅらシート (茶・白)  
与作シート (茶・白)  
(折りたたみ式  
専用キャリーバック使用)

## 住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号  
TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071  
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室  
TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

## 効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

# 機器はゼノアから

排気量 **18.3cm<sup>3</sup>**  
世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ

**G2000T** EZ-START

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)  
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm<sup>3</sup>**  
さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ

**G4211EZ** EZ+3+

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)  
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)  
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)  
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを追求したハンドルと思いのアクセルワークが可能なたりガーレバー。

**BC2711DW1-EZ**

・防振ハンドルブラケット  
・トリガーレバータイプ  
チップソー ¥79,380(税込)  
笹刈刃 ¥78,330(税込)

**ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店**

# (有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1